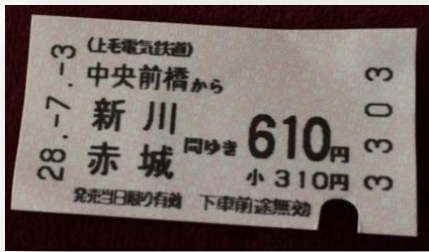


ぶらり一人旅



- 1 7月3日(日) 08:00
前日は、自衛官候補生(平月)の試験だったので、1日のお休みをぶらり一人旅の決行! 水沼温泉へ行こうと、中央前橋駅から赤城駅へ上毛電気鉄道を使いました。
ノープランで、自転車まで来て、切符を買いました。610円と高いなーと思うと同時に **1時間**に**2本**(08:17発に乗車)くらいしか運行していないことと **切符を今でも切っていた**ので少しびっくり。(レトロ感たっぷり。)

- 2 西桐生行きの電車の中には、幼稚園児の七夕飾りがあり、電車は一車線で駅で上りと下り電車がすれ違っていました。

また、電車に乗るのに、**整理券**があったり、無人駅で降りる時は、一番前の車掌にお金を払うシステムでした。右下にある「ワンマン出口」の下にある文字を二度見しましたが、**自転車を乗っけても良い**なんて知らなかった。自転車で桐生まで行くことも考えていましたが、これなら、行きは自転車で帰りはこの電車に乗せて帰れば良かったと反省。

知らないことだらけ!



3 08:55に赤城駅に到着

赤城駅から大間々駅まで歩いて「わたらせ渓谷鐵道」で水沼温泉センターに行こうと計画していました。レンタサイクルも心惹かれましたが、歩いて大間々駅へ、到着が早すぎて店が開いていませんでしたが、「銘酒 赤城山 蔵元」で朝から飲酒をと思いましたがぐっと我慢。

日本一しょうゆまで来て、**醤油ソフト(300円)を食べながら**、情報を入手、水沼温泉センターの割引券をゲット。

わたらせ渓谷鐵道も1時間に2本くらいしか運行しておらず、次は、09:17で09:49ならば、予約制のトロッコ電車に乗れましたが、午前中のうちに温泉に行きたかったので、09:17までぶらぶらしていました。



- 「近藤酒造株式会社」

土曜日、日曜・祝日は定休日でした。

明治時代初年に創業した。赤城山の麓に位置するため酒名「赤城」として、赤城山の伏流水を仕込み水に創業依頼辛口一筋に作ってきた。その後、名峰赤城山にあわせ、**酒名「赤城山」に改名**した。酒質は淡麗辛口にしてキレがあり爽やかな作りになっているとのこと。



- 「岡直三郎商店」

天明7年(1787年)近江商人初代岡忠兵衛が足尾銅山から江戸へ銅を運ぶ街道の要衝として栄えた大間々の地に「河内屋」の屋号を掲げ、醤油醸造業を創業した。

09:00~17:00 (無休)

蔵の見学無料(要予約)



4 大間々駅に到着し、まだ時間があつたので、「はねたき橋」でも見に行こうと、歩き始めたところ、はねたき広場で「**粉もんグルメGP**」がやっていたので、仕方なく、入ってみると、35店舗の大賑わい、早速、らーめん大関の餃子3つで300円を片手に、ついにドリンク販売コーナーで、**銘酒「赤城山」に手を出し、朝から堪能しました。**

• 「大間々駅」

待合室は昭和初期のモダンな雰囲気が残されており、明治から昭和初期にかけての歴史的な建造物が建ち並ぶ大間々の市街地に調和し、市場町として栄えてきた大間々の玄関口にふさわしい風格を持つようになってきている。



5 わたらせ渓谷鐵道の車内は、年輩の車掌による名所説明や切符売り、お土産も弁当売りみたいに売っていました。09:35に水沼駅に到着、階段で反対側に行くと、**駅に隣接する「すっぴん美人の湯」大人600円。**靴入れロッカーで100円(戻ってくる)と、脱衣所で有料ロッカーあり。

帰りの電車時刻を12:00発に乗るため、1時間30分程度、温泉を堪能しました。久しぶりにサウナに入り、**露天風呂では地元の方々の筍狩りや熊、蛭の話に耳を傾けていました。**着替えとタオルを持っていくと便利。シャンプー、ボディソープは完備しています。

水沼駅温泉センター すっぴん美人の湯 営業案内

すっぴん美人の湯

ご入浴時間 10:30 ~ 20:00

● 休館日 毎月第1日 (毎日が土日祝日の場合は次の平日) ※包し5・8・10・11月は営業
不定期

● 入館料

一般	友人会 会員 (入館毎 200円)
大人 1日 600円	大人 1日 400円
子供 1日 (小学生以下) 400円	子供 1日 (小学生以下) 320円
障害者 1日 400円	障害者 1日 320円
団体割引20名様以上 2割引	18時以降 大人・子供・障害者 300円

● 個室利用料

平日 3,000円	延長料金 1時間毎 1,000円
土日祝日 4,000円	

※お食事配膳は無料です。

割引特典 JAF / E-NEXCO / わたらせファミリー切符 / <こちよき>パスポート

6 昼飯を食べるためだけに桐生駅に12:41到着し、33℃の炎天下の中、日陰を探して歩き始めました。ペットボトルも一気に飲み干し、汗だらだら（温泉に入ってきたのにー!）の中、下図の藤屋本店の超極太（5~7cm）「カレーせいろひも川」830円を食べに、2km行ったところ、何故か、休業中。よって少し高いが途中にあった泉新のうなぎを食べに戻ったところ、13:30を過ぎていないのに、「準備中」、仕方なく、また、川野屋まで歩いてカレー南（1, 2cm）のひも川うどんを食べました。



7 最後は、西桐生駅から中央前橋駅に帰れば良かったのですが、桐生駅から歩いて往路で見つけた一杯飲み屋に戻ったところ、既に満員で入れず、一駅くらい歩いて、電車賃をうかそうと34℃にもなる中、丸山下駅まで歩いていると、また時刻を確認しておらず、帰りの電車が通り過ぎ、丸山下駅に到着すると30分待ちの状態、つくづく、ノープランは駄目なことを思い知らされ、暑さにジュースを買い、結局、西桐生で乗ればよかったと後悔しました。



疲れて、中央前橋駅では起こされ、官舎に帰って「尾瀬の雪どけ」をゆっくり飲みながら、三線を弾いて1日の終わり。